

松前町商工会経済レポート（令和元年度第4四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

1. 最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめぐりにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

（1）愛媛県の経済概況

一部で持ち直しの動きがみられるものの、全体としては弱含んでいる。

前回との比較 

なお、新型コロナウイルス感染症が県内経済に与える影響を注視する必要がある。

○個人消費

前回との比較 

一部で持ち直しの動きがみられるが、全体としてはやや弱い動きとなっている。

【百貨店・スーパー販売額】 前年同月比0.6%減少、4か月連続で前年を下回る。

【専門量販店販売額】 ドラッグストアは3か月連続で前年を上回る。

家電大型専門店、ホームセンターともに4か月連続で前年を下回る。

【コンビニエンスストア販売額】 2か月ぶりに前年を上回る。

【新車販売台数】 普通乗用車、軽乗用車ともに4か月連続で前年を下回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は持ち直しの動きとなっている。

前回との比較 

公共工事は増加の動きがみられる。

前回との比較 

【新設住宅着工戸数】 前年同月比12.0%増加、2か月連続で前年を上回る。

【公共工事】 請負金額の年度累計における前年同月比は26.2%増加。

○生産活動

前回との比較 

このところ弱い動きとなっている。

【鉱工業生産指数】 前年同月比(原指数)4.2%上昇、3か月連続で前年を上回る。

輸送機械、汎用・生産用機械、石油・石炭製品等の業種で前年を上回る。

窯業・土石製品、プラスチック製品、鉄鋼等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、改善が進む中、求人が求職を大幅に上回って推移している。

前回との比較 

雇用者所得は弱い動きとなっている。

前回との比較 

【有効求人倍率】 1.53倍と、77か月連続で1倍を超えた。

【正社員有効求人倍率】 1.19倍と、2か月連続で前年を下回る。

【現金給与総額】 名目では前年比0.9%増、2か月ぶりに前年を上回る。

実質でも0.5%増、2か月ぶりに前年を上回る。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和2年2月分）」より転載

<http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei0203.pdf>（参照 2020-5-8）

(2) 地場産業の状況（令和元年10月～令和元年12月の状況）

業種	産業事情
自動車関連	自動車関連は、高操業を維持している。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、米中貿易摩擦の影響により需要が減少傾向にあるものの、一定の操業度を維持している。 銑鉄鋳物は、受注量が減少しているものの、一定の操業度を維持している。 鉄構は、鉄骨需要が堅調に推移しており、一定の操業度を維持している。
陶磁器	陶磁器は、一定の操業度を維持しており、生産は前年比横ばいとなっている。
珍味品	珍味品は、国内での需要が高まっており、生産は前年比横ばいとなっている。
陸運関係	陸運関係では、地域にばらつきはあるもの、燃料費の高騰などから業況は下向きとなっている。また、一部の事業者では、慢性的な人手不足が課題となっている。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和2年2月分）」より抜粋して掲載
<http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei0203.pdf>（参照 2020-5-8）

2. 中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。

(1) 業種別業況判断D I と天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断D I 調査が実施されています。

D I とは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転）」の割合から「減少（低下、悪化）」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とD I 値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

<記号とD I 値の関係>

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇 10.0 ~▲10.0	 曇 ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	--	---	---

<業種別業況判断D I と天気図（2020 年 1-3 月期）>

製造業	食料品  ▲23.5	繊維工業  ▲33.2	木材・木製品  ▲28.9	家具・装備品  ▲28.2	パルプ・紙・紙加工品  ▲17.4
	印刷  ▲30.8	化学  ▲16.3	窯業・土石製品  ▲28.3	鉄鋼・非鉄金属  ▲30.0	金属製品  ▲26.5
	機械器具  ▲31.9	電気・情報通信機械器具・電子部品  ▲32.3	輸送用機械器具  ▲22.7	その他の製造業  ▲23.3	
非製造業	建設業  ▲8.3	卸売業  ▲28.5	小売業  ▲31.9	宿泊業  ▲39.6	飲食業  ▲26.3
	対個人サービス業（生活関連）※1  ▲21.3	対個人サービス業（自動車整備その他）※2  ▲26.3	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3  ▲30.8	対事業所サービス業（専門技術その他）※4  ▲9.2	情報通信・広告業  ▲6.7

※1「対個人サービス業（生活関連）」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の8業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他）」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫）」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の5業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他）」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の5業種。

（資料）中小企業庁「第159回中小企業景況調査（2020年1-3月期）」より松前町商工会作成

(2)「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- ・ 半導体、ロボット、工作機械関連の受注減に伴って、製造業全体の受注低下が依然解消を見せていない上に、新型肺炎の影響で中国からの物流が止まっており、予断を許さない状況である。[金属製品 山形]
- ・ 消費税が増税になってから約半年がたって、客単価は上がったものの客数が若干減少しています。今回の新型コロナウイルスの影響で学校関係の予約のキャンセルなどでこれからの経営が不透明です。[飲食店 茨城]
- ・ 消費税増税後の冷えこみに対し、今春から盛りかえしを図ろうとしていたところ、コロナウイルス関連で商材が入らなくなり、工事が延期になってしまった。先行きが不透明のため、別の工事での受注を模索している。[建設業 静岡]
- ・ コロナウイルスの影響により輸出売上の大幅減少が原因となり、急な業績悪化を招いている。また、キャッシュレス決済の大幅増による売上金回収の遅れ、大口取引先からの未回収金が生じたことによる借入金の増加がある。[小売業 愛知]
- ・ 暖冬の影響、消費の低迷による販売不振から脱却出来ていない。流通在庫及び自社製品在庫が過多になりすぎ、安売りの現象が出始めている。負のスパイラルに入っている感じである。[その他の製造業 香川]

(資料) 中小企業庁「第 159 回中小企業景況調査 (2020 年 1-3 月期)」より抜粋

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：2019年度第4四半期（2020年1月～3月期）

調査対象企業：150企業 回答企業：150企業

（製造業：31社 建設業：20社 小売業：40社 サービス業：59社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とDI値の関係

 快晴 ～30.1	 晴 30.0 ～10.1	 薄曇 10.0 ～▲10.0	 曇 ▲10.1 ～▲30.0	 雨 ▲30.1～
---	--	--	--	---

1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

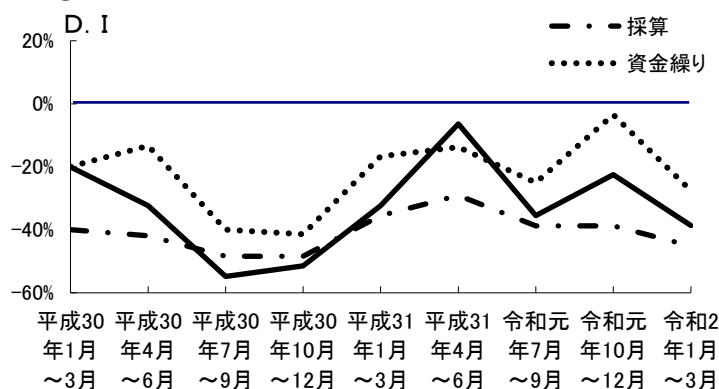
業種別	①製造業	②建設業	③小売業	④サービス業	全体
平成30年 1～3月期	 ▲ 43.3	 5.0	 ▲ 58.5	 ▲ 45.8	 ▲ 35.7
平成30年 4～6月期	 ▲ 43.3	 ▲ 15.0	 ▲ 41.0	 ▲ 8.4	 ▲ 26.9
平成30年 7～9月期	 ▲ 46.7	 5.0	 ▲ 45.0	 ▲ 16.9	 ▲ 25.9
平成30年 10～12月期	 ▲ 30.0	 15.0	 ▲ 48.6	 ▲ 16.9	 ▲ 20.1
平成31年 1～3月期	 ▲ 36.7	 20.0	 ▲ 47.5	 ▲ 28.8	 ▲ 23.3
平成31年 4～6月期	 ▲ 23.4	 30.0	 ▲ 45.0	 ▲ 12.1	 ▲ 12.6
令和元年 7～9月期	 ▲ 36.7	 20.0	 ▲ 41.0	 ▲ 15.2	 ▲ 18.2
令和元年 10～12月期	 ▲ 26.7	 10.0	 ▲ 46.2	 ▲ 25.4	 ▲ 22.1
令和2年 1～3月期	 ▲ 43.3	 0.0	 ▲ 55.0	 ▲ 23.7	 ▲ 30.5
来期見通し 4～6月期	 ▲ 46.7	 ▲ 15.0	 ▲ 55.0	 ▲ 30.5	 ▲ 36.8

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

①製造業



＜前期比＞

売上額 : 悪化 (▲22.5→▲38.6 ポイント)

採算 : やや悪化 (▲38.7→▲45.2 ポイント)

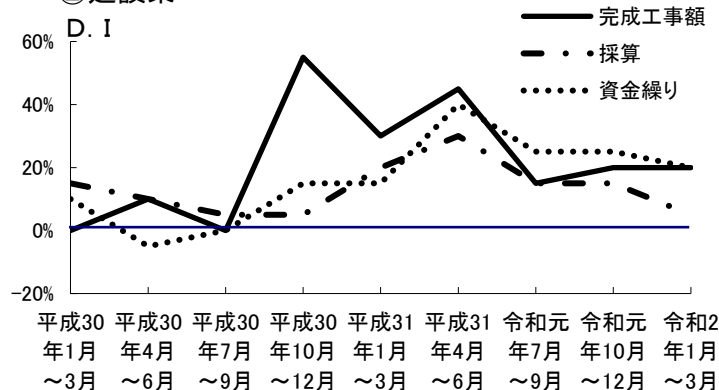
資金繰り : 悪化 (▲3.5→▲27.6 ポイント)

＜経営上の問題点＞ (順位と比率)

1位 : 原材料価格の上昇、需要の停滞 (20.7%)

2位 : 製品ニーズの変化、従業員の確保難 (10.3%)

②建設業



＜前期比＞

完成工事額 : 横ばい (20.0→20.0 ポイント)

採算 : やや悪化 (15.0→5.0 ポイント)

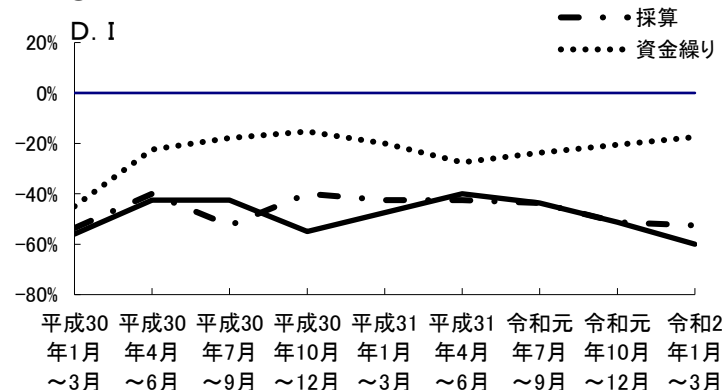
資金繰り : やや悪化 (25.0→20.0 ポイント)

＜経営上の問題点＞ (順位と比率)

1位 : 官公需要の停滞 (23.1%)

2位 : 材料価格の上昇、材料の入手難、
熟練技術者の確保難、民間需要の停滞 (15.4%)

③小売業



＜前期比＞

売上額 : やや悪化 (▲51.3→▲60.0 ポイント)

採算 : やや悪化 (▲51.3→▲52.5 ポイント)

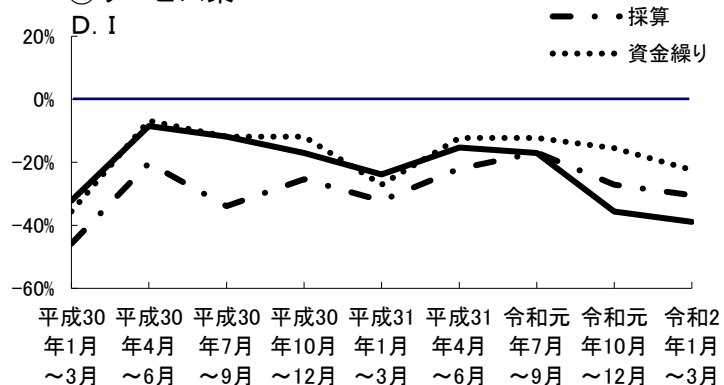
資金繰り : やや好転 (▲20.5→▲17.5 ポイント)

＜経営上の問題点＞ (順位と比率)

1位 : 購買力の他地域への流出、需要の停滞 (23.1%)

2位 : 消費者ニーズの変化 (15.4%)

④サービス業



＜前期比＞

売上額 : やや悪化 (▲35.6→▲38.9 ポイント)

採算 : やや悪化 (▲27.1→▲30.5 ポイント)

資金繰り : やや悪化 (▲15.5→▲22.4 ポイント)

＜経営上の問題点＞ (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (22.4%)

2位 : 材料等仕入単価の上昇、従業員の確保難 (16.3%)